



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

諸民族の間で

新潟教区司教 成井 大介

第2バチカン公会議の「教会の宣教活動に関する教令」は、Ad gentesという言葉から始まっています。日本語では「諸民族のもとへ」という意味です。

教会の歴史の中で、宣教には、「キリスト教国から非キリスト教国に向けて」行うものというイメージがありました。「キリスト教圏の中と外」の線引きが意識され、宣教活動が行われていましたように思います。

しかし、今ヨーロッパ、特に西ヨーロッパ諸国の教会では、非常に多くのアジア、アフリカ、南米出身の司祭や修道者が働いています。私の所属する神言会では、すでに1990年、ヨーロッパ諸国の管区長たちが、「ヨーロッパの神言会はこれまで宣教師を派遣してきたが、これからは宣教師を派遣される必要がある」と宣言し、他の地域で新たに終生誓願を立てた会員の初任命先としてヨーロッパ諸管区を入れるよう総本部に願い出ました。これは、ヨーロッパにおけ

♥♥♥ もくじ ♥♥♥

巻頭言	1
第96回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ	10
ECHO	10
連載「海外宣教」	12
新しい支援者・事務局より	16



る召命の減少と、いわゆるグローバルサウスにおける召命の増加を背景としたものですが、同時に諸文化の多様性の豊かさをヨーロッパにおいても表すことが意識されていました。

神言会は約 80 カ国で活動していますが、どこでも、意図的に、違う文化的背景を持った会員で共同体を作るよう心がけています。それは、諸文化を尊重して宣教するということ、会の共同体の中でまず実践することにより、共同体の存在や生活そのものが宣教の証しとなるためです。

世界はもうずいぶん前から移民の時代となっており、ヨーロッパでもどこでも、一つの民族で社会が構成されているわけではありません。「諸民族のもとへ」という表現は、もはやある国から他の国へ、という意味で使うことが困難な時代になっています。

神言会では、ad gentes という言葉に加え、inter gentes という言葉を使っています。「諸民族の間で」という意味です。この「間で」という言葉は、宣教の姿勢を示唆するものです。どこにでも様々な民族がいて、その人たちの間で宣教する姿勢。福音をまだ知らない人に知らせるだけでなく、福音を知らない人にも神が働いておられ、宣教者がそこから学ぶという姿勢。様々な違った文化を通して育った信仰が会うことで、互いを豊かにすることを信じる姿勢、等等。

私はこうした、諸民族の間で行われる宣教は、外国であろうと日本であろうと全く同じだと考えています。日本には様々な民族の人々が生きていて、日本人も含めて皆互いに外国人です。私も一人の外国人として、お互いに、対等に、違いから学び、変えられ、豊かになっていくという思いで宣教しています。

最後にもう一つ、宣教師の養成と交わりについて書かせてください。神言会では、有期誓願期に海外での宣教を 2 年ほど体験したり、そのままその国に留まって神学の勉強をしたりするプログラムがあります。日本で養成を受ける神学生は海外に行き、海外からは神学生が名古屋にある神言会の神学院に来ます。ここ 10 年くらいでしょうか、海外から来た神学生が名古屋で日本語で神学を勉強し、終生誓願を立て、司祭に叙階され、出身国以外の外国に派遣されるケースが増えています。「せっかく日本語で神学を勉強したのに」と思われる方が多いのですが、A 国から B 国に来て養成を受け C 国に派遣されるということは世界では当たり前に行われており、日本も宣教師を送ったり受け入れたりするだけでなく、養成や研修の場として、世界的な宣教師の交わりのために役割を担っていただけたら素晴らしいと思っています。

□■□ 第 96 回運営委員会議事録 □■□

日 時：2024 年 3 月 8 日（土） 13:00～14:00

場 所：フランシスコ修道会 聖ヨゼフ修道院 2 階教室

出席者：運営委員 9 名 欠席 3 名

議 事

I. 「きずな」170 号について

編集者から→はじめは原稿が少なかったが、発行日に近付くと原稿が集まり 16 頁にまとめることができた。

II. 「きずな」171 号について

171 号巻頭言：新潟教区 成井大介司教に依頼。

III. 援助申請

東ティモール浦 善孝神父（イエズス会）より

東京から東ティモールの聖イグナチオ学院へ物品を輸送するためコンテナ（20 フィート）の運賃。内容は教室用の黒板 21 台（別に購入）と上智大学から寄贈された図書（段ボール箱大 30 箱）、その他。なお DHL は高額すぎ、国際郵袋小包による書籍発送も現在不可能。

1) 東京⇒東ティモール・デイリ ¥827,660（株日新の見積書から

2) 東ティモールでのコンテナ引き受け US \$ 1500.00（225,000 円）（概算）\$ 1/¥150

合計申請額……………約 1,052,660 円

残額が出た場合は返金。

審議の結果、賛成多数で援助決定。

IV. その他

- ・「きずな」170 号 業者発送 2,713 通 3 月 4 日（火）発送。
- ・事務局国内大口発送 82 通、事務局海外発送 99 通 3 月 7 日（金）発送。
- ・海外宣教者名簿 2024 はついに完成したため、海外宣教者、国内司教方、教区事務局に 36 通同日送付。
- ・運営委員の交代について シスター谷口美帆（イエスのカリタス修道女会）転勤の為退任
シスター日高和子（聖心侍女修道会）転勤の為退任
シスター熊本幸子（サレジオン・シスターズ）新任
シスター平 峰子（イエスのカリタス修道女会）新任
- ・シスター日高和子とシスター谷口美帆に今までの感謝を申し上げ、新任地でのご活躍を祈り、新任のシスター方にはこれから宜しく願いしたい。
- ・今年度より監査を片山恭子委員にお願いする。

次回の運営委員会は 2025 年 6 月 14 日 13 時～



宣教者からのお便り



イタリア

◆アッシジ◆

結婚したカップルたちとの集い

マリアの宣教者フランシスコ修道会 徳田 あずさ

私が、アッシジに住むのは二度目で、通算すると在アッシジは9年になります。私のいる共同体の主な活動は、『巡礼者の受け入れ』です。私たちのチャペルでは、地元の方々の結婚式も受け付けています。いつも世界中から集まってくる巡礼者で溢れかえるアッシジですが、実は、地元の信者の教会離れが進んでいます。

以前、私が派遣されていたシシリー島のシラクーザ市の共同体のように、貧しい人や移民・難民家族と共存して、どこまでも無償で援助をするという活動に比べると、ずいぶん内容が違います。巡礼者からも結婚式をする人々からも、お代を頂きます。果てしなく続く建物のメンテナンス等の諸経費がかかるから、勤務する方々への人件費がかかるから……とはいえ、『なんだろう、このジレンマは』と、私だけではなく、共同体のシスターズみんなが頭の片隅に、もやーっと疑問を抱き続けていました。この仕事だけにならないように、カリタス、教区の大聖堂の手伝いなど、外部への奉仕も、できる範囲でそれぞれのシスターがしています。

私たちの受け入れ宿には、通いで勤務する方々が10名います。それでも、この仕事は6時から23時まで休日なく続くので、上手に休

憩をとりながらも、シスターズはかなり疲弊しています。高齢化もあります。そこで、私たち共同体の地元教会への奉仕活動として、前年にうちで結婚したカップルたちを招待し、無理はせず一年に一度、感謝ミサと昼食を共にする日を設けました。その試みは今年で三年目を迎えます。カップルたちは何も携えず、身一つで来てもらうことにしています。この集いには三つの目的があります。

1) それぞれが歩み始めた結婚生活を、共に、神に感謝するため。

二人が神によって結ばれたことを再確認し、教会への帰属意識をもってもらいます。

2) 結婚生活の歩みを助ける様々な講座を教会が提供している、ということを知ってもらうため。

結婚式前、教会の勉強に参加し、その教へのすばらしさに感嘆しても、結婚式の後は再び教会から遠のくカップルが多く、このような講座の存在を知らず、利用もせずに、小さな行き違いや不明瞭が重なって、結局、子供たちを巻き込む形で別居や離婚に至るケースが多いということは、とても残念です。別居・離婚後に講座に参加し、『もっと早くこの講座を知っていたら』という声を時折、耳にします。

3) 彼らのためにいつも祈り続けている共同体のシスターズが存在を知ってもらうため。通常、彼らは結婚式担当のシスターとしかコ

ンタクトをとる機会がありませんが、実は、共

同体全員で祈り続けています。二人ぽっちではないことを知ってほしいのです。

通常、再び来る機会のない彼らは、自分たちが結婚の誓いを立てた同じ祭壇の前でゴミサに参加することに、感慨深げです。ゴミサ後は場所を移し、自己紹介。この一年を振り返ってひと言、述べてもらいます。また、この集いの目的を彼らに伝え、様々な講座のパンフレットを渡します。それから食堂に移動し、小テーブルごとに司祭（修道士）、シスターズ、1～2組のカップルが着席し、昼食会が始まります。楽しく語りながら1時間半ほどの昼食会は続き、解散です。

若いカップル達は忙しく、出席する夫婦は全体の4割弱です。それでも、「結婚した後、ゴミサの時、聖体拝領をするようになった」という夫の発言にこちらが元気づけられたり、妊娠しているので祈ってください、とシスターズに要望する妻がいたり。この食事会に出席した大抵のカップルは出産後、赤ちゃんを抱いて私たちを訪れてくれます。また、同じく地元に住む自分の両親や姑さんに、私たちとのつながりを話しているようです。このように、教会に親しみを持ってもらえることも、地味で気長な、地元への宣教活動の一つだと感じています。

モンゴル ◆ゾーンモード◆

教皇様が私に残してくださったもの

サレジアン・シスターズ 小島華子

毎年、ご復活の翌日の月曜日はカトリック宣教者全員、黙想の家に集まり共にミサを捧げ、

持ち寄りの食事で復活の喜びを共に祝います。大きな喜びを味わって帰路についたとたん、教皇様のご逝去のニュースを聞きとても信じられませんでした。ショックでした。少しずつでも回復に向かわれると信じていましたから。

教皇フランシスコは2023年9月1日から4日までモンゴルを訪問されました。お泊りになられた司教館内の部屋はメモリアルルームとして大切に保存されています。実は聖ヨハネパウロ二世教皇が2002年にモンゴルを訪問される予定になっていましたが、キャンセルになった為フランシスコ教皇が予定通り来てくださるよう祈りながらお待ちしていました。

私は幸運にも司教様から教皇様の食事係とお部屋の責任をお願いされ、1週間前から最終準備に専念しバチカンからの入念な指導の下に少しずつ正確に準備しました。

2023年9月1日、教皇様モンゴル到着の日。ライブストリーミングで飛行機の到着そして飛行機から出てこられた教皇様を見た瞬間に涙が溢れ出てきました。教皇様はいつも小さい人、見捨てられた人に心を配ること、郊外に出向いていくことを力説しておられましたが、ご自身が身をもってその模範を示されたことを目の当たりにし、教皇様のすばらしさに感動で一杯になりました。奇跡ともいえるこの4日間、教皇様にモンゴルに来てよかったと思っていただけるよう、健康を害されることなく無事に過ごされるように細心の注意を払いつつ祈りのうちに精一杯ご奉仕しよう！と決意を新たにしました。

行事以外はいつも司教館におられました。めったにお会いすることはできませんでした。



食卓の給仕をする時と朝のプライベートのミサのときに間近で顔を拝見し、テレビやインターネットで拝見する顔とは少し違い、優しく普通のおじいちゃんだなお見受けしました。毎日沢山の行事がありお疲れになっているにもかかわらず、出会う人々に車椅子から笑顔で手を振り、司教様の説明を熱心にお聞きになって行事の一つひとつに興味をもって参加なさっておられました。

食事係は常に司教館にいるようにということで残念ながら私は行事には参加することができませんでしたが、間近で教皇様と接する機会を与えられて一番心に残ったことは全てにおいて徹底的に簡素さを求められ私たちに沢山の気を遣わせることなく、まさにアシジの聖フランシスコを思わせる方、言行一致の方でした。

毎日お写真を見ながら祈る時、教皇様は私に「12年間、私が話したこと、示したこと、訴え続けてきたことの何を具体的に生きてくれますか？」と、問いかけていらっしゃるように思います。

インド

◆ナガランド◆

インド通信 23 その4

メディカル・ミッション・シスターズ 延江 由美子

ディマプールにあるチャバラ（南インドに生まれたカトリック聖人の名前）・ホームはカルメル会というカトリック女子修道会が運営している施設。カルメル会のシスターたちが HIV Centre から紹介された HIV /AIDS を持つ患者さんを受け入れ治療しています。また敷地内には、HIV/AIDS (+) の親を持つ女の子達（自らも HIV +の子もいます）の寄宿舎があって、高校を卒業するまで面倒を見ています。私たち MMS はなにぶんにも人手不足で実際の医療・教育活動を共にできないのですが、ささやかながらも金銭的に援助することによってチャバラ・ホームのミッションの一端を担わせていただいております。以前は子供たちが勉強したりクリスマス会などをする、竹で造られた極めてシンプルな小屋がありましたが、コロナ前にアメリカから見学に来たプロテスタントの人たちがドーンと寄付を申し出て立派なコンクリートの建物に変身しました。

私はたかだか一年に一度訪問するだけです。シスターたちの献身的な活動を拝見するたびに深く心を打たれます。そして今回は、カルメル会のシスター・フローレンスがフォローアップしている2人の女性に会って詳しく事情を伺うことができ、とても幸いでした。そのひとはネパール出身のパヌという女性。（ナガ

ランドにもネパールから仕事を求めて移住してきた人が大勢います。) 17 年前に薬物中毒の夫から HIV に感染してしまい、今も毎日 AIDS の特効薬を飲んでいますが、チャバラ・ホームにはデリにある National AIDS Control (NACO - ナコ) から無料で支給された在庫が十分ありました。バヌは縁あってチャバラ・ホームで働き始め、院長だったシスターから学んだ英語をととも流暢に話します。現在は NGO でヘルス・ワーカーとして働いているそうですが、デング熱に罹ってしまい入院していました。タイミングよく私たちがいたので、彼女が面倒を見ている甥と姪の滞納している 6 ヶ月分の学費 7,200 ルピー (1 人あたり 1 ヶ月 600 ルピー、半年分が 3,600 ルピー) の一部を支援させていただきました。ちなみに「いのち綾なす」をこちらでは可能な限り 2,500 ルピーでお求めいただいています。

もうひとりにはキホシェという名のセマ・ナガの女性。最近古着を売り始めたそうで、相談に来るから私たちにも同席してほしいと言われていました。彼女は第一子を出産した時に HIV + だとわかったそうです。夫からの感染でした。結局、夫の家族からも自身の家族親戚からも見放されてしまい、一人息子を育てながら必死にひとりで生きてきました。HIV/AIDS と知られるとまだまだ差別されひどいハラスメントを受けるので、決して誰にも言いません。「彼女はほんとうに働き者で一生懸命なのよ」とシスター・フローレンス。私たちも次の仕入れの支援をさせてもらい、日を改めて彼女が住んでいるところを訪ねることにしました。

そこは日本でいう昔の下町長屋のようなとこ

ろで、キホシェはそこでもかなり年季の入った家を借りて幼い息子と姪と暮らしています。使い古された家具はみんな貰いものだそう。大家さんの厚意で隣にある改築中のスペースで古着を仕分けしていました。卸値はクオリティーによって 1 袋 23,000 ルピー、40,000 ルピー、50,000 ルピーとランク付けられています。「上等な古着の方がよく売れるので、出来れば一番高い袋を仕入れたいけれど高嶺の花です」「いただいたミシンを使って売れ残ったものをリメイクすればまた売れるかなと思って、午前中は毎日裁縫のクラスに通ってます」と目を輝かせてノートを見せてくれました。「チャバラ・ホームとシスター・フローレンスがいなかったら到底ここまでこれませんでした。2 人の子供と生きていくのはほんとうに大変でなんです。」と、それまでたいへん明るく気丈に振る舞っていたキホシェが思わず涙ぐみ口をつぐんだ姿に、私ははっとしました。彼女の慣れない英語では到底表現しきれない、そしてナガ社会に対する私の乏しい認識では計り知れないだろうシビアな現実に、彼女が日々直面していることに気がついたからです。

シエラレオネ

◆ルンサ◆

おかげさまで 83 歳になりました

御聖体の宣教クララ修道会 白 幡 和 子

おかげさまで、私は 2024 年 11 月 29 日に誕生日を迎え、83 歳になりました。先生方や生徒の皆さんが歌ったり踊ったりしてお祝いしてくださり、クッキーやコーラをプレゼントし

てくださいました。1月は毎週土曜日、各学校の運動会がありました。マリアイネス中学校、マリアイネス職業訓練校、OLG 小学校、そして玉川白百合幼稚園の運動会です。今年は、OLG 中等学校では運動会の代わりに文化祭が開催されました。様々な民族・部族が踊りを披露したり、文化の重要な側面を劇で表現したりしました。本当に素晴らしいものでした。玉川白百合幼稚園の運動会は2月1日に行われ、私はクッキー、ポップコーン、ソーセージなどを販売しました。その際の利益はわずか 3,000 レオンでしたが、小学校の運動会では二日間で約 19,000 レオンの収益がありました。生徒たちは運動会をとっても楽しみました。現在は通常の授業に戻っています。



園庭屋根取り付け工事が終了しました

イエスのカリタス修道女会 末 吉 順 子

ペルー国、リマ市では、昨年よりゲリラグループがバスやタクシー運転手を襲い、射殺するという事件が相次いでいます。昨日もマリア・タキ保育園の地域でバスの運転手 2 名射殺、1 名が重体という事件がおき、今日まで 10 名以上の運転手が亡くなっています。運転手だけではなく市民も巻き添えになることがあり、国が全く処置をとらないこと、安全警護不備に対する不安を抱えています。今日は、4 度目のストライキがあり、バス、タクシーがストップ、学校もお休みになりました。日本では政治への国民の興味が高まっているようですが、こちらでは、

機能していない政治への不満や怒りが高まり続いています。

さて、大変遅くなりましたが、やっとマリア・タキ保育園園庭の屋根の取り付け工事が終了しましたので、ここにご報告させていただきます。総工事費 66,500.00 ドル。総収入 66,260.40 ドル。海外宣教者を支援する会からの支援金 17,800 ドル。支払いは 3 度に分けて行い、最終的に追加分の支払いを済ませ、完了しました。

お蔭様で、雨が降っても遊べる庭になり、子



工事前



工事後・新しい屋根

どもたち、職員、父兄も喜んでます。生徒数が定員に達していないため苦しい運営状況なので、園児募集のために、これが一つのプラスポイントになってくれたらありがたいと話しています。本当にありがとうございました。

.....

日本

◆東京◆

宣教者の足跡

運営委員 波多野 真理子

ブラジル南部パラナ州のロンドリーナ市にある最も貧しい地域で、子供達のための施設を作られたベタニア修道女会のシスター松本圭世が今年一月に神様の元に召されました。

日本から派遣されたシスター方がスラムに入り活動を始められた1980年代始め頃、この辺りでは特に犯罪が多く、監獄に送られる親と離れて暮らす子供達の生活は困難な状態で、また子供達自身も盗み等を犯しながら暮らさざるを得なかったそうです。日本を離れてこの様な地域で、シスター松本は責任者として精神面でも金銭面でもご苦勞を重ねながら預かる子供達のために日々奔走なされたのでした。

最初は数名だった子供達は遂には90名となり、断らざるを得ない状態にまでに。朝登園してくる子供達の服を先ず脱がせ、シラミの付いた服の洗濯、シャワーに洗髪、園での服に着替えさせてからの朝ご飯・お昼ご飯・夜ご飯まで。その間に遊びや教育、そして最後に到着してきた洗濯の終わった服を着せて帰す（新しい物やきれいな服を着せると直ぐに売ってしまうから）。シスター方のご努力で、ここでは子供達が安全

にそして健康的に生活する事が出来たのです。朝のお祈りの時間には、「お父さんやお母さんが早く警察から帰りますように」「夜の仕事から早くお家に帰りますように」「どうか警察に見つからないように」と祈る子供達からその生活ぶりがしのばれたそうです。

理事長を務めるシスター松本の大きなご苦勞は金銭面のこと。90人の食べ盛りの子供達の食事を提供し、働いておられる10人の職員に給料を支払う等。そのためお金持ちの家を訪ねて寄付をお願いしたり、また別のシスターは市場へ行き売り物にならない野菜を頂いて来たりしました。市場では顔なじみになり「イルマン（シスター）、これあげるよ」と。とても楽しかったと笑顔で話して下さいました。

何よりシスター方が教育の大切さを実感されたことがありました。それはここで育った子供たちが中学・高校・大学まで進みしっかり勉強をして今の施設の経営者となり、シスター方に代わってここを営んでおられる事です。また素晴らしいことに司祭も誕生されているそうです！施設としての長年の実績のお陰でシスター方の帰国後も活動や施設建て替えにあたり市からの援助も得られたそうです。

海外で働いておられる日本人宣教者にとって、継続的な日本からの援助と祈りは大きな支えと力になると、シスター松本のブラジルでの経験を話して下さいましたシスター間野は仰っていました。

かつて我が家の三人の子供達が順にロンドリーナを訪れ現地で皆様と交流できましたことを心から感謝しています。

(徳田教会所属)



✈️ **ザ・メ ッ セー ジ** (海外短信) 📧

***ブラジル モジ・ダス・クルーゼス**

コンベンツアル聖フランシスコ修道会 大水恵一
レオナルド・松尾繁詞神父パニブ名誉会長受賞。2024年12月5日、坂本エリオ会長はパニブ事務本部で執り行われた年の感謝のミサ聖祭において、レオナルド松尾繁詞神父(コンベンツアル聖フランシスコ修道会)にパニブ名誉会長の称号を授与しました。松尾神父は日伯司牧協会創立以前から日伯司牧活動に尽力1968年はパニブ創立に関与され、生涯を通して宣教活動に貢献してこられました。1 宣教師として、その努力と献身は多くの人々に尊敬されています。この荣誉ある受賞は、ブラジル国内外の多くの方々に、大きな喜びと祝福をもたらしました。また、松尾神父の足跡をたどる、後輩の宣教者たちにとっても大きな励みとなることでしょう。私たちは、彼のご健康と、さらなるご活躍を心からお祈りいたします。

2025年2月、オリゾンテ535号より。

***ブラジル ポイトーバ**

アジジの聖フランシスコ修道会 石原テルエ
フレイ・マルティーニョ神父様が1938年アジジのフランシスコ・カテキスタ宣教在属修道

会を創立なさいました。私たちはこの在俗会で修練をしました。ささやかな働きをして今日まで来ました。そして、2年前に、住み慣れた住まいジャラグアを去って、新しい土地、ポイトーバというところに住んでいます。1月4日新しい聖堂が完成し、ジュリオ赤嶺大司教様をお招きし、新聖堂の祝別式がありました。

私たちはこの新しいカペラ(チャペル)で、毎日お祈りができること、感謝いたしています。日本の皆様の温かい心のご支援をありがたく、厚く御礼申し上げます。

***ブラジル ポイトーバ**

アジジの聖フランシスコ修道会 阿部島伸子

今から57年前、たくさんの夢をいだいて、42日間の船旅を終えて、ブラジルのサンパウロ、ジャラグワ本部に到着いたしました。時の流れは水のごとく召し出しも少なくなり、本部修道院を新しい会(12年前に始まった会)ヨハネパウロ2世男子修道会に渡しました。2023年3月8人のイルマン(シスター)たちがパロン(気球)で有名なポイトーバに移動しました。いつも、きずな、その他の雑誌をお送りくださりありがとうございました。感謝の意を込めて。



◇いつも「きずな」をお送り頂きましてありがとうございます。過酷な状況の中でご奉仕されているシスターの皆様はいつも四旬節の歩みを

過ごされていることと思います、出会う方々が一人でも復活の喜びを体験できますように、お祈り申し上げます。(栃木県 那須トラピスト修道院)

◇いつもながらのお働き、感謝の祈りをささげます。(埼玉県 長山 好子)

◇毎回「きずな」を読み励まされています。ありがとうございます。(千葉県 寺田 公之)

◇「きずな」を読ませて頂きました。(東京都 岡田 圭子)

◇いつも「きずな」をありがとうございます。記事の中に同級生や親戚の名前を見つけ、改めてわずかなお手伝いをさせていただきます。

(東京都 上中 めぐみ)

◇海外で頑張っているシスター方を支えたいと言っておりました夫宮脇章郎が2月天に召されました。私妻篤子が引き続き支援させていただきます。よろしく願い申し上げます。

(東京都 宮脇 篤子)

◇いつもニュースレターきずなをありがとうございます。皆様のおはたらきに勇気と希望をいただいています。

(大分県 お告げの聖母トラピスト修道院)

◇少しですが、何かのお役に立てばうれしいです。(鹿児島県 春日 圭子)

◇北村文代さん(170号巻頭言)の脱藩人の話に納得させられました。キリスト者の上から目線はありがちですね。日本人のキリスト者の意識改革のためには異文化との出会いが必要と思います。技能実習生と出会い、正義と平和の問題に向き合うこと、若い世代との交流など。

(北海道 柳谷 豊)

◇いつも、ありがとうございます。

(東京都 石田 富志子)

◇神のみ旨のままに(東京都 青木 紀子)

◇すべての人達の尊厳と幸せのために奉仕するシスター方の健康と神様のご保護をお祈りいたしております。(東京都 鳥居 孝一)

◇いつも皆様のご活動に感謝しています。これからもお祈りいたします。

(東京都 木嶋 えつ子)

はじめまして。こんにちは。

イエスのカリタス修道女会 平 峰子

この度、シスター谷口に代わって運営委員を担当させていただくことになりました。

普段は、杉並区で幼稚園に勤務し、毎日接する園児、保護者、先生方、日曜学校の卒園児の中で宣教に励んでいます。限られた範囲内ですが、さまざまな場面で喜びや感動的な体験をしたり、逆に難しさや問題に直面したり、と任務や運営と共に宣教の課題も尽きない毎日です。

この度新たな任務をお受けするにあたり、一歩ふみだして、世界の宣教に目を向ける機会を

与えていただくこととなり、神様に感謝しています。

微力ではありますが、ご教示を頂きながら、みなさまと共に海外宣教の一端を担っていただけらと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとう シスター谷口

運営委員、イエスのカリタス修道女会のシスター谷口美帆が3月末に長崎に転勤になる前にわざわざ事務局にいらしてご挨拶くださり、色々なお話をさせていただきました。家族のお話からついには死のお話まで、今まで運営委員会の

度にお目にかかれて、明るいお人柄で皆様を楽しませてくださっていたのですが、長崎に行かれるため当分お会いできないのはとても寂しいです。これからは次の任地で人々を笑わせ楽しませ益々お元気でお仕事、頑張ってくださいたく存じます。
(事務局)

サレジオ会ブラジルからの訪問者

2025年2月27日(木)、11時よりカトリック調布教会において、ブラジルより日系、赤嶺大司教と比嘉エヴァリスト神父をはじめとする他2名の司教、2名の司祭が来日されてお目にかかることができました。顧問の山野内マリオさいたま司教よりお声をかけていただき、参加させて頂きました。時間の都合で個別インタビューはかないままですが、貴重な体験をさせて頂きました。

懇親会前に、日系のブラジル人信徒と訪問者たちがチマツチ神父資料館見学後、お墓の前でお祈りされたあと晴天のお庭で写真を撮りまし

た。ブラジルからの大司教たちは長崎と静岡をすでに回って来られたとのことで、翌日の28日にはブラジルに向けて帰国されるとのことでした。

日系の方々と様々な準備して下さった調布教会のメンバーと、ごミサにあずかることができました。赤嶺大司教が主司式を務められ、説教が行われました。ごミサの説教は山野内マリオ司教の弟、調布教会主任司祭、山野内アンヘル神父によって訳されました。ごミサ後、信者たちは大司教と神父方に個別に挨拶し、祝福を受けておられました。

この機会は、当会の宣教者名簿2024が完成したばかりでしたのでお名前だけ記入しているブラジル日系大司教方にお目にかかれたことが大変有意義でした。また今年は聖年につき巡礼対象となっている調布教会を久しぶりに訪れることが出来、さいたま教区の信徒の方々とお話できたことも非常に幸いでした。

日本カトリック海外宣教者を支援する会

事務局長：山田真知子

連載

「海外宣教」

教皇フランシスコの教会の核心—三つの「周縁」

「周縁」のイタリア語発音を間違えた教皇フランシスコに感謝

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

わたしは、2014年にローマで開催された、サレジオ修道会の第27回総会に、日本管区代表として参加していました。確か3月の第1日曜日だったと思いますが、サンピエトロ広場に行くと、教皇フランシスコの昼の祈りを聞き、ともに祈りました。二つのことをよく覚えています。

約4万部の福音書が無料で配布され、わたしの周りのイタリア人たちは「無料だ、信じられない、こんなにたくさん、しかもポケットサイズ、いつもバッグに入れておこう」と声高に言っていたこと。そして、いつもの窓から発せられた教皇のメッセージの中で、「周縁」ということばがわたしの心に深く刻まれたことです。よく覚えているのは、それが間違いなのか、イタリア語を話す人の記憶に残るように意図的だったのか分かりませんが、教皇はこういったのです。「教会は、自分の殻から抜け出し、『周縁』（この単語をいったとき、周りのイタリア人たちは「それはペリフェーリアではなく、ペリフェリーアだ」と叫びました）へ出向いていくよう求められています。それは、地理的な周縁だけでなく、存在としても、です」。教皇は「周縁」をスペイン語式で発音し、最後にアクセントを付け損なったのです。教皇のこの間違いのおかげで、わたしもイタリア語の発音を正しく覚えることができ、その詳細はわたしの心に深く刻まれました。『El loco de Dios en el fin del mundo（地の果てに住む神の愚か者）』（Penguin Random House Grupo Editorial、スペイン、2025年）の著者、Javier Cercas（ハビエル・セルカス）によると、このことばは、2013年3月9日、カトリック教会の第266代教皇に選出される4日前、コンクラーベ（教皇選挙）前の枢機卿会議で、すでに述べられていたものだそうです。

イタリア国外への旅を続けた教皇—47回、66カ国を訪問

教皇フランシスコは、健康状態が不安定になったのち、2025年の復活の月曜日に88歳で亡くなりました。最後に公の場に出たのは2月9日です。2013年3月13日に選出され、カトリック教会史上もっとも現代的な教皇と評され、もっとも多くの発展途上国を訪問した教皇として歴史に名を残すでしょう。フランシスコは、教皇在位期間中、イタリア国外への多様な訪問と訪問回数の多さで注目されました。12年間の在位期間中、国外を47回、66カ国を訪れました。最長の訪問は、2024年9月2日から13日まで、インドネシア、パプアニューギニア、東ティモール、シンガポールを訪問したことです。

これまでの教皇たちを見ると、9カ国を訪問したパウロ六世を皮切りに、ヨハネ・パウロ二世は25年間で129カ国を訪問、ベネディクト16世は23カ国を訪問しました。フランシスコの場合、注目すべきは訪問した国の数ではなく、その国名です。注目すべきは、西洋の世界観で中心となるような国々がほとんど含まれず、さまざまな理由で周縁部と見なされる国々が数多く含まれていることです。

「周縁」概念は、フランシスコの思想中、極めて重要

2013年3月9日、教皇選挙の4日前、枢機卿たちが集まったコンクラーベ前の枢機卿会議で、フランシスコは「教会は、地理的な周縁だけでなく、存在としての周縁にも、自分の殻から出向いていくよう求められている」（ハビエル・セルカス）と語りました。

フランシスコは、この二つの周縁、つまり地理的な周縁（大都市から離れた地域）と宗教的な周縁（神が存在しない、あるいは必要とされない場所）に、三つ目の周縁＝社会的周縁、つまり、この世界の恵まれない人々のいる場所を加えたのです。

この三つの周縁部は、フランシスコにとって教会の中心です。「教会が貧しい人々を見捨てれば、それはもはやイエスの教会ではなく、知的・道徳的エリートになるという、昔ながらの誘惑に再び陥ってしまう」。

したがって、フランシスコにとって、教会は中心、つまりローマとバチカン、そして教会の官僚機構の華やかさや儀式から離れるべきなのです。

つまり、この教皇は、教会には二つの対照的な像がある、と宣言しています。一つは、自分の殻から抜け出す、宣教する教会、もう一つは、自分のうちで、自分で、自分のために生きる世俗的な教会です。フランシスコによると、二つ目の像は破滅に導き、一つ目は救いをもたらすものです。そのため、かつて自らも宣教者になりたいと願ったフランシスコは、教会の宣教の情熱を主張し、周縁部、つまり地理的にだけでなく、何よりも困っている人々のところに向向いていく教会の使命を主張しています。

ですから、フランシスコのこの預言者的な声とともに、十字架につけられ、復活したイエスに根ざした希望の目撃者であり、その道具となるために日本から出かけていった宣教師たちのことを思い起こしましょう。

そして、教皇フランシスコが教会の中心だとする「三つの周縁」についてのこの短い振り返りを、昨日、今日、そして明日のイエスの弟子であるわたしたちが、「出向いていく教会」となるべきことをよく表す福音箇所を聞きながら、締めくくりたいと思います。

イエスがゲネサレト湖畔に立っておられると、神のことばを聞こうとして、群衆がその周りに押し寄せて来た。イエスは、2そうの舟が岸にあるのをご覧になった。漁師たちは、舟から上がって網を洗っていた。そこでイエスは、そのうちの1そうであるシモンの持ち舟に乗り、岸から少し漕ぎ出すようにお頼みになった。そして、腰を下ろし

て舟から群衆に教え始められた。話し終わったとき、シモンに、「沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をしなさい」と言われた。シモンは、「先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、おことばですから、網を降ろしてみましよう」と答えた。そして、漁師たちがそのとおりにすると、おびたしい魚がかり、網が破れそうになった。

(ルカ 5・1～6)

2024 年度 寄付者 (匿名希望者を除く)

1	アペリエコ	93	加藤 肇一	185	聖マリア在府会	277	八王子教会
2	アラクワ与平コ	94	加藤 千代	186	聖マリア修道女会	278	奥谷川 隆子
3	聖カタルメル会	95	加藤 和流	187	高崎聖母小学校	279	加藤 宗子
4	陸奥 真知子	96	菊田 進也	188	聖マリアスコ修道院 陸奥	280	一畑
5	菊木 紀子	97	幸島 肇	189	聖フランシスコ病院修道女会	281	鹿嶋 辰吉郎
6	森世 菊子	98	川柳 肇	190	聖フランシスコ病院修道女会 鹿沼第二	282	平松 浩
7	森岡 進	99	川内 藤典子	191	聖心中高等学校	283	平野 真博
8	新井聖会	100	川巻 啓祐	192	聖クララ修道院	284	平野 隆子
9	ウエストロア修道会	101	片岡 隆子	193	聖ドミニコ会口グザリオ修道院	285	平塚 健雄
10	イエス・マリアの聖心会	102	片岡 万葉	194	聖ドミニコ会聖母修道女会 松山修道院	286	フタシャウワジトウカイ
11	イエス会 東京	103	キリスト・イエスの聖歌会小野田	195	聖パウロ女子修道会	287	フナハシ ミエ
12	イエスのカリタス 甲府	104	キリストイエスの聖歌会防府	196	聖西礼拝修道院	288	眞田 安子
13	イエスのカリタス修道女会管区本部	105	聖母マリアの無原罪教育宣教会	197	聖心会修道女会	289	眞田 正博
14	イエスのカリタス修道女会亀川	106	北2台聖歌会	198	聖心会礼拝修道院	290	松崎 隆子
15	イエスのカリタス修道女会吉備	107	北村 文代	199	聖心待女玉興修道院	291	藤枝教会
16	イエスのカリタス修道女会新井	108	朝霞聖母小学校	200	聖心待女修道会藤倉	292	藤田 照子
17	イエスのカリタス修道女会川南	109	木下 隆子	201	聖母修女会修道院	293	聖カトリック教会福音の会
18	イエスのカリタス修道女会赤坂修道院	110	木下 隆子	202	聖母聖心修道院 青森	294	藤岡 隆子
19	イエスのカリタス修道女会多摩	111	山本 健男	203	聖母聖心修道院	295	福音堂聖ヨハネ布教修道会
20	イシカワ テアキ	112	木村 隆子	204	聖母聖心修道院	296	福島 健雄
21	イトウ タダシ	113	木嶋裕介 次子	205	聖母クララ会	297	ベタニア修道女会東京
22	伊藤 千帆	114	奥生川 裕子	206	聖母聖心修道院 弘前	298	ベタニア修道女会本郷修道院
23	伊藤 康雄	115	秋保聖マリアの無原罪教育宣教会	207	聖母聖心修道院 高松	299	ベタニア・メルセス会第二修道院
24	伊藤 夢	116	クームス 真輝	208	タグツ ジュンコ	300	鐘巻 啓子
25	井口 敏子	117	九尋 隆夫	209	高岡 みどり	301	マリアの聖歌会フランシスコ礼儀
26	井手 公平	118	工藤 隆子	210	高岡 栄美	302	マリアの聖歌会フランシスコ藤子島
27	井上 隆紀	119	橋本 京子	211	山本 隆子	303	マリアの聖歌会フランシスコ修道会
28	井上 隆子	120	コソヴェルアル 小島井修道院	212	聖山 聖貞	304	マリアの聖歌会フランシスコ修道会熊本
29	藤子教会	121	沼津 隆子	213	太田 隆子	305	マリアの聖歌会フランシスコ修道会東京第二
30	藤巻 眞理子	122	沼津 隆子	214	太田 隆一	306	マリアの聖歌会東京第三修道院
31	藤巻 隆子	123	聖山聖歌会	215	山本 正重	307	マリアの聖歌会フランシスコ修道会戸塚
32	大沢 隆子	124	光臨女子学院修道院	216	山本 正雄	308	マリアの聖歌会シャムロード修道院
33	井上 伸之	125	看護及ヴェルナ学院	217	竹中 隆子	309	マリアの聖歌会修道院大塚
34	今泉 隆子	126	藤野 丈	218	竹中 ひとみ	310	藤田 美子
35	岩間 正幸	127	小林 ひとみ	219	竹崎 美穂子	311	藤田 美智子
36	藤田 幸子	128	神戸学院女子学院高校修道部	220	田所 正子	312	藤田 杏たづね修道院
37	藤岡 文知	129	新井の聖歌会クララ修道会長野	221	中嶋 隆子	313	藤田 隆子
38	石井 心慈江	130	新井の聖歌会クララ修道会	222	川口 隆子	314	松原 隆一・隆子
39	石井 祥子	131	さどう まさひろ	223	立木 福	315	松原 隆一
40	石原 眞世	132	ザベリオ宣教会	224	高岡 眞理	316	松田 宏紀
41	白石 隆	133	ザレリアン・マンマルグリータ修道院	225	高岡 隆	317	松田 隆雄
42	藤田 隆子	134	ザレリアン・シスターズ五直	226	高岡 隆	318	松本 隆子
43	池上 隆之	135	ザレリアン・シスターズ大分	227	高岡 隆子	319	真田 孝ゆみ
44	池田 眞世	136	ザレリアンシスターズ・福岡	228	高田 ひさえ	320	藤田 孝枝
45	藤田 隆子	137	ザレリアンシスターズ管区本部	229	神上 隆子	321	藤田 隆子
46	藤田 眞美子	138	ザレリアンシスターズ世帯	230	佐藤 正子	322	森下 隆子
47	藤田 眞知子	139	ザレリアンシスターズ秋田	231	三原 三恵子	323	米沢 彰一 シゲル
48	伊藤知 眞子	140	ザレリアン聖マリアマザレロ	232	天候の聖母トラスピヌス	324	雪下 隆子
49	ウツ ジュンコ	141	佐藤 元弘	233	天候の聖母聖母修道女会	325	斎藤 隆子
50	伊藤知 眞子	142	佐藤 政雄	234	田原聖母聖母小学校	326	聖母レディンプリスタン修道院
51	大沢 眞世	143	札幌修女院	235	田原聖母聖母中高一ゼザベット会	327	斎藤 隆子
52	藤田 隆子	144	藤井 三典子	236	中野 隆子	328	三上 隆子
53	上中 めぐみ	145	佐藤 隆子	237	トウゴ ユウコ	329	三谷 正子
54	上田 智恵	146	三位一体の聖母聖歌会	238	三井 聖嗣	330	トラビスト修道会 藤原
55	藤田 隆子	147	藤井 隆子	239	藤岡前 眞子	331	ムラウイ イサヤ
56	フアンシジョ/パウロ原町聖母会	148	藤井 隆雄	240	藤岡聖歌会ハザー	332	藤田 隆子
57	藤原 文恵	149	藤井 隆子	241	戸塚修道女会	333	メルセス会 藤
58	江口 隆子	150	シャルトル/パウロ修道女会	242	山本 眞	334	メルセス会高円寺
59	江藤 隆二	151	ショヴァイユの福音イエス会	243	島崎 幸一	335	メルセス会4号修道院
60	聖母聖母修道院	152	ショヴァイユの福音イエス会	244	聖カタルメル女子修道院	336	元山 日出子
61	聖母マリア修道会	153	藤田 隆	245	石谷の聖母トラスピヌス	337	藤 隆
62	オタク聖母修道女会	154	聖イエス修道会	246	島崎 寛	338	藤 由理
63	おかげのフランシスコ姉妹会	155	執行 セツ子	247	ナザレ修道院	339	藤口 隆子
64	おかげの聖母トラスピヌス	156	藤岡 眞子	248	ナムジュール・ノートルダム修道院	340	藤岡 隆三
65	藤岡 眞子	157	百合会聖母小学校	249	聖母トラスピヌス修道院	341	藤岡 隆子
66	藤岡 隆子	158	下田 眞子	250	新井大石会	342	ヤブサシタ トモコ
67	藤岡 隆夫	159	清水 治美	251	中川 初子	343	山口 悠紀子
68	大塚聖地大聖歌区	160	清南百合会聖母小学校	252	中津サレジオ修道院	344	八幡 眞理
69	小川 眞士子	161	聖母修道院	253	中島 アツ子	345	山田 眞知子
70	小川 眞生	162	新井 隆子	254	山本 眞理	346	山田 海壽
71	小島 隆	163	藤田 隆子	255	中島 隆子	347	山本 眞子
72	小野 治子	164	品田 隆子	256	神野 眞知子	348	山田 聖治
73	許登 眞子	165	藤原 孝ゆみ	257	眞山 好子	349	山田 眞子
74	大塚聖歌	166	十聖のイエス・ベネディクト修道会	258	藤岡 隆子	350	山口 悠紀子
75	大塚聖歌セブ聖母修道女会	167	聖母聖母マリアのフランシスコ修道会	259	聖母聖母修道院	351	藤岡 隆子
76	大塚聖母修道院	168	真心聖母会礼拝修道院	260	聖カトリック修道院	352	藤岡 隆子
77	大塚 聖歌	169	真心聖母会	261	聖心会聖母修道院	353	藤岡 隆子
78	小川 千加子	170	スピノ修道女会	262	川口 隆子	354	藤崎 隆子
79	福音イエス会管区本部二ツノハラ	171	スミス 隆子	263	山本 眞理	355	藤崎隆子中・高等学校
80	福音イエス会管内修道院	172	松本 隆子	264	藤田 隆子	356	藤村 隆子
81	福音イエス会聖山聖母修道院	173	藤原 眞知子	265	マウエル聖母修道会	357	西田 眞一
82	カラスダ ヒロコ	174	末寺 眞理子	266	藤岡 隆子	358	聖母聖母の聖母聖母修道会会中
83	カタルメル会市市	175	藤原 眞美子	267	ノートルダム聖心中高	359	斎藤 隆子
84	カタルメル修道院	176	藤本 眞子	268	ノートルダム府見修道院	360	レザンブール会
85	カタルメル修道院西宮	177	藤本 眞子	269	新井 眞理	361	レザンブール会井上高
86	加藤 和良	178	藤原の聖歌会	270	HARVEY Paul Anthony	362	レザンブール会修道院
87	会沢聖母修道院	179	藤田ニッコウ聖母修道院	271	花田 和和	363	レザンブール会修道院
88	藤田 冬子	180	藤田ニッコウ聖母修道女会坂出修道院	272	花田 聖美	364	藤原聖母修道院
89	岡山 眞理	181	藤田ニッコウ聖母修道院	273	花田 隆子	365	藤原 眞理
90	岡田 心美子	182	成城会外分セブ修道院	274	小塚 隆子	366	藤岡 隆子
91	聖母百合会聖母中高等学校	183	聖ベネディクト女子修道院	275	斎藤 眞理子	367	岡山聖母修道院
92	加藤 美 眞	184	聖マリアの無原罪 名古屋	276	眞理 光代	368	

新しい支援者

個人 3名

小川 富士子 (広島県)

岡田 圭子 (東京都)

宮脇 篤子 (東京都)

事務局より

- ◎フランシスコ教皇が帰天され新しくレオ 14 世がローマ教皇に就任されました、これからの希望となりますように。
- ◎4月より新年度になりました。運営委員の交代もありこれからも宣教師の方々の為に働きます。
- ◎ご自宅に書き損じのはがきや未使用に切手がございましたら、お送りください。通信費として大切に使用させていただきます。
- ◎今年度こそは災害が起こらないように祈ります。

編集後記

◇復活祭の翌日に教皇フランシスコが帰天され、コンクラーベの開催で世界中から枢機卿が招集され投票の結果、ブレボスト枢機卿が選任され、新たにレオ 14 世が教皇となりました。前田枢機卿と菊地枢機卿のコメントを拝見すると、神様のお導きによって選任された事を実感したと述べていました。一信徒の下世話な感情を恥じる思いでした。世界では戦争や紛争が続き、それらの影響や円安等により、異常な物価高騰が続き、ますます暮らし辛い生活を余儀なくされています。25年毎に実施される聖年なので、巡礼指定教会・聖堂を訪問してお祈りをして来たいと思います。一日も早く平和が来ますように。(い)

発行：日本カトリック海外宣教師を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教師を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教師を支援する会